

令和5年度 第3回徳島県文化創造審議会 議事録

I 日 時

令和5年11月17日（金）午前10時00分から午前11時30分まで

II 場所

徳島県庁10階 大会議室

III 出席者

【委員】20名中14名出席

田村禎通会長、吉田和文副会長、阿部曜子委員、清水英範委員、鈴木アヤ子委員、
武市信宏委員、永本嘉彦委員、西村美咲委員、花柳淳吾委員、藤本和史委員、
美馬持仁委員、三宅孝典委員、森恵子委員、四十宮隆志委員

【徳島県】

佐藤泰司未来創生文化部長、益田英栄文化・未来創造課長 ほか

IV 次 第

1 開会

2 議事

(1) 「第2期 徳島県文化芸術推進基本計画」素案について

(2) 意見交換

(3) その他

3 閉会

V 議事の概要

事務局

議事1の資料について説明

会長

今事務局から素案について説明がありました。委員の皆様にはご意見ご提言をいただければと思います。どなたからでも結構ですので、よろしくをお願いします。

第2回の会議で、5か年計画ですので数値目標を立てて計画的に進めていく必要があるだろうということでありました。この数値目標の策定はどのような段取りで行われていく予定ですか。

事務局

数値目標につきましては、先ほど事務局の方から説明もさせていただきましたが、資料1の10ページをご覧ください。こちらが指標・数値目標となっています。例えば、項目として出させていただいております①のI「県民主役の文化活動の促進」でございま

すと、県民文化祭のメインプログラムや部門別プログラム参加者数ですね。この人数を、コロナ前の人数にまで復活させ、それを減らさないような形でと考えております。ただ、現在、数値目標につきましては、総合計画の方でもどのような数値を置くかというのを検討しておりますので、今回につきましては、このような項目でいかがかというのをご審議いただければと思っております。以上でございます。

会長

この「徳島県文化賞」というのは、新たな創設ですか。

事務局

これは長く歴史がございまして、今年は甘利さんが受賞されております。年に1回知事から表彰させていただいており、皆様方のモチベーションになっていると思いますので、継続して実施していきたいと考えております。

会長

わかりました。

いかがでしょうか。どなたからでもご意見ございましたら。どうぞ。

委員

計画全体を拝見させていただきまして、バランスよく全項目に政策が散りばめられているという印象を受けました。

その中で会長がおっしゃった指標・数値目標については、県全体の計画とリンクをしながらというお答えがありましたけれども、何を選ぶかって非常に難しいと思うんです。だから差し替えもあるとおっしゃったんですけれども、できるだけ成果が見えるような指標、いわゆる成果指標っていうんですかね、そちらを選んだらいいんじゃないかなという気がしております。それで、拝見させていただきましたら、音楽祭の満足度を指標にすることが1つ例で挙げられていましたけれども、それはいろんな音楽祭があって、その満足度の尺度の取り方、例えば10点満点で取る方法、あるいは良かった・非常に良かった・普通とかいうので、全然尺度が変わってきますので、統一感を持った指標にするのはなかなか難しいかなという気もしております。鋭意、検討していただいたらと思っております。

それと、素案ということで挙げられておりますけれど、これから肉付けをしながら最終案ということで、バランスよく配置するというのも結構なんですが、重点的な項目を抜き出してと言いますか、特にこんなことやるんだというふうな。重点化されたような箇所を、重点化項目を作ると言うんじゃないくて、重点化して実施するというような、力を入れる施策みたいなものも、中に取り込んだらいいかなと思っております。以上です。

委員

ただいまあわぎんホールさんから説明がありました、重点的な政策ということでいくと、このタイミングでここからの5年間ということですから、まずは大阪・関西万博、

これが1番大きいんだらうと思います。それと新ホール。この2点っていうのは、やはり県民・市民として見た場合、文化的なポイントになるのかなというふうに思っております。

また、先ほど説明がありました「徳島県文化賞」と「とくしま芸術文化賞」、毎年選ばれているんですけど、手前味噌なんですけど、私も「阿波文化創造賞」をいただきまして、その節はお世話になりました。「県文化賞」と「阿波文化創造賞」というのがセットになっていつも11月の下旬ぐらいに公表されています。「とくしま芸術文化賞」と「とくしま文学賞」は、時期は同じなのかわからないんですけど、2月や3月だったような気がするんですが、私も新聞で拝見しまして。これは「県文化賞」とどういう立ち位置で違うんだらうかっていう疑問に思いました。ここに説明されているように、文化振興財団様からの顕彰ということと、徳島県様からの顕彰、この点で大きく分かっているんだというのが説明でわかったんですけど、じゃあそれぞれの立ち位置と言いますか、どう違うんだっていうのが今ひとつピンとこないというのが正直な印象であります。

それから、「①徳島の文化を担う『人づくり』」の「V『徳島ファン』の拡大」、この中に「徳島ファン」による地域文化の継承発展というところがあるんですけど、この地域文化というのは果たして伝統文化のことなのか、あるいはアニメといった最新の芸術文化をさすサブカルチャー的なものであるのか、このあたりがふわっとしているなというふうに思いました。とりあえず以上です。

会長

回答をお願いします。

事務局

委員からいろいろご意見を頂いております。ありがとうございます。

最初にあわぎんホールさん、様々な催しされておまして、アンケートも非常に多く取られております。確かに、この指標の満足度というのでは、参加されている方の意識によってかなり変わってくるので、参加者数とかの方が非常に客観的な数字であると思いますので、この満足度というのが果たして正しいかどうか、もう少し客観的なものがないかというのも合わせて検討してまいりたいと思っております。

もう1点ですが、重点化というところでは、委員の方からも合わせて、新ホール、そして大阪・関西万博のPR、非常に大事だと思います。やはりそういうことが「徳島ファン」の拡大というようにところに繋がり大きな項目として挙げているところです。この「徳島ファン」の拡大というのは、地域の今までの伝統文化の継承と合わせまして、アニメ等の新しい文化の両方を含んでいます。冒頭、事務局の方からもお話をさせていただきましたが、これからは人口減少になってまいりますので、皆様方がずっと守って来られました地域文化、それをずっと継承していくというのすらなかなか難しい。ただそのところは県としてもしっかりと下支えをしていきたい、一緒に頑張っていきたいという思いがあるのとともに、新たに経済の活性化という観光と合わせたような形での文化の発信というのも必要かと。そういう点で言いますとアニメなどを活用したものが必

要かと。前回の会議でも、水上タクシーですね、そういうのも非常に有効じゃないかというのもありました。そういう新しい視点、新しいコラボも含めたところでも必要ではないかというふうにあります、様々なところにもあるんですが、「徳島ファン」というのは考えているところでございます。

それともう1点、顕彰の件で県の顕彰と財団の顕彰というのがございました。県の方としましては、県内の団体をずっと頑張って普及していただいた方、県全域の文化活動に寄与した、という基準となっております。そちらの方で県は文化賞、そして四十宮委員も受けていただいた、今後どんどん活躍していただくという方、県内での活躍が非常に目覚ましい方、そして今後、県内の文化活動にお力になっていただける方、今回はギタリストの徳永真一郎さん。世界的な実力を持ちながら、徳島で何回も公演をさせていただいております。そういう方を表彰させていただいていると。財団の方につきましては、民間の視点で、まさしく文化のトップレベルの方々が理事会評議員となっただいております。そういう視点で表彰者を決めていただいていると存じております。このように、表彰する側からの違いというのがございます。以上でございます。

会長

ただいまのお話いただいていたかがでしょうか。どうぞ。

委員

10 ページの③のⅢ、「文化・未来創造課所管3施設の講座等の参加者数」とございますが、3施設とはどこなんでしょうか。

事務局

すみません。分かりにくく申し訳ないです。

文化・未来創造課が所管している施設ということで、あわぎんホール、阿波十郎兵衛屋敷、そして文学書道館、その3施設となっております。

委員

分かりました。ありがとうございます。

事務局

こちらの方、確かに一般の方が見たら分かりにくいので、括弧書きで今の3施設というのが分かるように追記をさせていただきます。

会長

積極的に取り組むところを強調した方がいいんじゃないかというご意見がありました。大阪・関西万博は、「あわ文化」の認知度を高められる、発信できるというのは非常に大きいことなのでもう少し強調して書けるといいですね。開催が計画期間の5年の中に入ってきますから。

それから、文化芸術の1つのシンボリックな存在として、県民が誇れるような新ホー

ルの早期整備を「環境づくり」の中で強調して書くべきと思います。大阪・関西万博と新ホールは、この5年間の中では非常に大きなものなると思います。いかがでしょうか。

委員

もう1つ質問なんですけれども、先程質問しました10ページ③のⅡ、「文化資源を活かした文化観光の推進」とあるところに「文化の森総合公園文化施設入館者数」がございますが、文化施設というのは、文書館と博物館なのでしょうか。

事務局

文化の森総合公園の中にある施設、文書館、博物館、美術館なども含めたものというふうに考えております。

委員

では、そういうようなところ、先程のあわぎんホールとかいうように、文化の森総合公園の中には、文書館、美術館、博物館なども入れたらよく分かるのではないかと思います。

事務局

分かりました。そのようなところは分かりやすく書いておきます。

会長

いかがでしょうか。どうぞ。

委員

よろしく申し上げます。

いろいろお伺いして、会長さんがおっしゃったように、大阪・関西万博に向けてっていうのはすごく大事でアピールのチャンスかなというように思います。

学生の教育機関として、地域教育とか地域への貢献力とかいうのはもう10年ぐらい前から授業をいくつか各学部設けたりして、定着はしています。でも、その授業を受けた子は出ていく。それではやっぱり問題かと思imasので、若い子の学生数、人口数は減っていくのはもう確実ですので、どうすると出て行かないか。世間を広く知るためには、一旦出て行ったほうがいいという親心的なものもあるんですが、徳島をもう一度見つめ直すということと、それと反対に呼び込む、よそから一旦出て行った人を呼び込む、徳島のことを知らない人を呼び込むということが必要なと思います。

そうしますと、やっぱりこの大きなキャッチフレーズにある持続可能で魅力的な徳島、魅力的な徳島っていうことを知ってもらうにはどうすればいいかって言ったら、次にはやっぱり戦略だと思います。これはすごくいい計画だと思うんですが、これを実行するにあたって戦略的な方法も考えた方が良くないかなというふうに思います。じゃあ、どうすればいいかということ、具体的に私もあるわけではないんですが、前に申し上げた三好長慶さんの歴史を取り上げると、なんで長慶は有名ではないんでしょう。織田信長よりも

先に天下人になったということで、もっと世の中が注目してくれていいと思うのに。存在が日本史の中でも注目されない。大河ドラマで取り上げて欲しいという、そういう運動をされているところも大阪と連携しながらあるみたいですので、あえて歴史の中に埋もれてはいますが、それほど知名度が高くない人を、逆手にとって何か出す方法、何かないでしょうか。

あと、ゆるキャラの「すだちくん」も、もうそろそろ変わってもいいのでは。徳島全体をカバーするような「すだちくん」に代わる新たなゆるキャラがあってもいいんじゃないかなというふうにも思います。夏に函館に行ったんですが、土方歳三が五稜郭で有名ですが、「ヒジカタ君」というかわいいキャラがあちこちにあるのを見ました。「すだちくん」と同様に「くん」をつけただけなんです。なんかこう一般の人に訴える力があるようなものを大阪・関西万博に向けて考えるという戦略も、1つの方法かなというふうにも思いました。

会長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。どうぞ。

委員

この指標・数値目標の中で、まず「文化活動への若者参加の促進」というところという項目と、1番下の「文化部活動の地域連携・移行」、部活動の地域移行に向けた体制の整備というのがあるんですけども、今、大阪でも、関西圏一円でも、これは賛否両論がありまして、現場の先生方も困惑している学校とかもあるんですけども、徳島県の方の需要はまずどうなのかなってということと、その地域移行が本格的に始まった場合に、活動範囲ってというのは結構広がるんじゃないかと思うんですよね。今、学校の中だけでやって、文化祭とか、あるいは各種コンクールとか出場していると思うんですけども、なかなか一般の方には認知されていない。それを地域の中で活動したり、例えば、人形浄瑠璃にしても今チラシを見て思ったんですけども、私は吹奏楽部が専門ですけども、大阪ではすでに指導員ってというのが配置されてまして。いろんなところに広がりを見せています。そういった活動がどのくらい進んでいるのかということと、その指導員となるための文化活動への若者参加の促進、「あわ文化」のリーダーとなる子どもたちの育成というの、高校・大学、例えば徳島文理大学は四国で唯一音楽学部を持っている学校なので、そういった方が卒業して音楽活動になかなか関われないというところがあるんですけども、それも広げられる1つのチャンスかと思って、こういうところをリンクさせて、活動をうまく計画すればいいのかなと感じました。

それと、5か年計画ということで、新ホール、大阪・関西万博までには無理としても、2028年までになんとか体制づくりができればという感じはします。この案が生きている間にスピーディーにやって、今日、徳島新聞を見て、藍場浜公園とあわぎんホールとの合併じゃないですけど、隣同士というのもいいのかなと。

1つ私、プロウィンド O23 っていう山形のプロ吹奏楽団に時々参加しています。あそこは山形駅の何もなかった西口というのをを使って、やまぎん県民ホールという2000人の大ホールと山形テルサという1000人ホール、山形テルサはもともとあったんです

けれども、その隣にやまぎん県民ホールというのは新しく作ったんですね。県民ホールが老朽化して、ダメになったので。そこでも演奏させてもらったこともあるんですけども、こういった形がすごく集客しやすいなというのは、実際感じました。どう転ぶかわかりませんが、こちらから意見できるようなことがあったら、それも1つのこの役目かなと感じております。

会長

ありがとうございました。他いかがでしょうか。

委員

お世話になります。今日は学校関係が私しかないようなので、私の方でお話しさせていただきますと思います。

9ページのVですね、「文化部活動の地域連携・移行」のところなんですけども、今、委員さんの方からお話がありましたが、地域連携については色々人形浄瑠璃とか、地域の方とかの指導を受けながら進んでいる部分もあるかと思うんです。ただ、その、地域への移行については、運動部活動が今だいぶ徳島の場合は中学校の方で先行していきまして、受け皿作りとかその辺から始まって県教育委員会の方でもそういう対応をしているんです。ただ、文化部活動については、どんな動きをしているかというところまでは、こちらの方では今わからない状況です。少なくとも高校につきましては、運動部を含めてなんですけど、今、地域への移行っていう話は具体的には出ていないというところなんです。ただ、課題としては、やはり子供たちがどんどん減ってきていますので、現実問題として、部活動の維持ができないというふうなところが生じてきています。そうなった時に、やはりどんどん文化芸術活動が縮小していく可能性っていうのは、これは学校が縮小していくことによって、全体も縮小していく可能性もあります。地域での受け皿というのがあったりとか、今とりあえずのところは学校をまたいで合同での部活も始まったりはしていますので、その辺から、体制整備のところですかね、そういうところでの受け皿作りっていうのが実際に進めていただければと、将来的に持続可能な文化芸術活動が、中学生・高校生もできるんじゃないかなというふうに思うところです。以上です。

委員

計画自体は非常によくまとまっているなというふうに考えております。

9ページのⅢの「『あわ文化教育人材バンク』を通じて」っていうところなんですけども、私も色々と考えておまして。県民が主役となってと言うんですけども、なかなか県民の皆さんがこんなことしたいんだけど、どこで何をすればいいかなと、どこに連絡をしてどういうふうにしたらいいのかなと。例えば初心者であったりとかですね、興味はあるんだけど、私も参加したいんだけど、どこへ相談すればいいのかっていうのが、やはりワンストップでわかることって、とても大事なのかなと思います。文化活動を行っている団体で、こういう方はここに相談してくださいとか、こういうことやっていますよっていうことをまず県民に知らせてあげるとのこと。例えば、小説書いてるんだっ

たらここに発表の場がありますよ、演劇やりたいんだったらこういうところが今活動してますよとかですね。そういうことが一覽でわかるようなものっていうのは、学校教育だけじゃなくて、県民の皆さんにとっても、とても大事なんだろうなと思います。そういったもの、多分あるとは思いますが、なかなか皆さん、思った時にわからない。私も競技かるたをやってるんですけども、全日本かるた協会の四国徳島支部のところから入ってきて、メールをいただいて、この前もやりたいんですけども、もう80歳を超えた方がおられてですね。1回来ていただいて、見ていただいて、その次に、こういうところで活動をしているところがありますよって紹介したら、ありがとうございますっていう形でつながっていくっていうようなですね。やりたいんだけど、どこへ行けばいいのかっていう時に繋げてあげるっていうのはとても大事なことかと。そこらへんが本当の底上げというか、県民の皆さんの文化活動を奨励するっていうのは、そういう細かいところ、繋げてあげるっていうことがとても大事なのかなと思います。やりたいっていう人はたくさんいるかもしれない。また、見たいっていう人もたくさんいるかもしれない。子どもたちもいろんなツテを使ってうちのところに来て、そういうのがとても大事なのかなと思います。

それともう1点、例えば人材バンクについて、先ほど先生の方からありましたけども、学生をうまく派遣できると、また1つ活性化するのかなと思います。ただ、学生はなかなか経済的に厳しいので、何らかの補助があったりとか、指導員についてもそれで生計立てるというわけではないんですけども、何らかの、交通費が出るとかがあったら、指導に活かせることができるのかなというのは考えたりしています。別件ですけども、中学生の地域移行の国の事業で、教育学科の方も、今年10月から今試験的に受け入れているんですけども、なかなか国の事業とか受けないとお金ってそう簡単に出るものではないとは思いますが、予算ってのはなかなか難しいと思うんですけども、うまくそういうシステムを指導員についても、やはり皆さん仕事を持ってたり、学業を持ってたりするので、難しいところはあるかと思うんですけども、派遣できるようなシステムがあればというのは思います。実行するにあたって、そういう点も考えていただけたらありがたいなという案です。またよろしく願いいたします。

会長

何か身につけたいと思った時に、こういう方法がありますということを書き込むことが出来ればいいですね。

私どもの大学もリカレント教育に力を入れておりまして、社会人の学び直しているのがメインですが、生活を豊かにするための講座も開いております。音楽学部では、30年にわたり、生涯学習講座「コーラス・キーボード」を実施しています。参加者は実に楽しそうですね。文化芸術に触れる機会を、容易く、参加しやすい形ができたらと思います。

委員

1つお聞きしたいんですけども、7ページの「『徳島ファン』の拡大」というのがあると思うんですけど、これに対して、数値目標の徳島ファンの拡大の「観光情報サイ

ト総アクセス件数」でその数値を測るってということなんですけれども、7ページの内容からして、「徳島ファン」っていうのが他の県から来てくださったり徳島にもっと住みたいって言って、移住してくださるようなコアなファンのような印象を受けるんですけども、数値目標の方が総アクセス件数ってなると、非常にライトなファンの方が多いような印象を受けるんですけども、これからを考えると、県外から出て行く人が多かったりすると思うので、そういう人を引き留めるような「徳島ファン」が必要なのかなと思います。

事務局

若者にとどまっていたきたい、そして県外からも来ていただきたい、それには「徳島ファン」というので、数字目標をどうするかというのは我々事務局としても非常に悩んだところです。マチ★アソビで来てくれた人がいいのか、阿波おどりがいいのか、いろいろ考えたんですが、なかなか的確なのがなく、徳島県に住んでいるという定住人口、来たことがあるような交流人口、そして最近関係人口というような、徳島にルーツを持ったり、徳島に関心があって何回か来てくれる、定住人口と交流人口の間のような関係、そういう考え方も出てきているところだと考えています。なので、まずは徳島に関心を持っていただくためにPRしているのが、やはりこういうサイトですので、それを見ていただけるというのは、ある程度関心を持って来ていただける方がいるんじゃないかという目安になるのかなと思ひまして、まずはこの数字を数値目標としてあげさせていただいたところです。

先ほどの委員からのお話もあるんですが、今後この少子化に伴って、徳島県の人口がどんどん減っていく中、文化を継承・発展していくためには、やはり交流人口も併せてなんですけど、繰り返しになりますが、出て行く人は引き止める、来てくれる人を増やすというのがあり、総合的な戦略というのが必要になってくると思います。先ほどおっしゃっていただいた「すだちくん」をどうするかとか、そちらの方はこの文化の計画ではなく観光・文化、そしてインフラとか、そういうのも含めた総合計画の中で入ってきますので、こちらでは文化に特化した数値という形にさせていただいております。

また、例えば三好長慶や、そういう様々な非常に強いコンテンツを持っておりまして、その魅力を発信していくのは非常に重要だと県の方でも考えております。そういう三好長慶を盛り上げる文化的な活動等に対しては、県としましても今、補助金の方を出すような施策をとっております。ただ、具体的に三好長慶を盛り上げるとか個別のことはなかなかこの計画の方は書きにくいものですので、皆様方からいただいたこのようなご意見、そういうのは計画の根本に流れるものとして、各施策の中で十分に反映してまいりたいと考えております。以上でございます。

会長

他、いかがでしょうか。

委員

まとめ方、すごく上手にまとめていらっしゃるの、ずいぶん時間をかけてご苦労さ

れたというのを感じます。

私の分からない部分は、9ページの「文化芸術団体の活性化」っていうところで、下の、文化振興財団が運営する「あわカル〜とくしまイベント情報〜」の登録を促進、これは意味がよく分かります。その上なんですけれども、「県内各地の団体を包括し、県全域を対象に活動している部門別文化団体と連携して各種イベントを実施することにより、県内の文化芸術活動の裾野拡大を図ります」という、文章はわかるんですけれども、具体的にはどういうことをしていくんでしょうか。

事務局

県民文化祭で、例えば県展、こども県展も含めて、あとは音楽協会の主催する公演であったり、日本舞踊の大会であったり、それら全県下にまたぐ文化団体、そちらが主催する事業に対して、県としても補助をさせていただいているところです。そのような活動につきまして、やはり全県下をまとめていらっしゃる団体というので、今後ともずっと継続をしていただきたい、まさしく今まで徳島の50年以上も続く文化の基礎でございますので、そういう団体を支援していきたいという思いで書かせていただきました。彫刻集団も先般、昨年、60周年野外彫刻展も行っておりますし、それぞれの団体が非常に長い伝統を持っておりますので、県としてはしっかりと支援をしてまいりたいということを含めて、このような文言で書かせていただいたところでございます。

委員

助成をされているってということですかね。

事務局

そうです。

委員

では、そこに助成をしているって書いてくれたらよくわかりますけど。

事務局

そうですね。助成というどうしても金額的なものだけというふうになると思います。が、県民文化祭なら実行委員会や、こういう意見交換の場もございまして、そういったところでご意見をいただく、そしてできることをさらに考えていくというのも含めて支援と考えております。ですが、確かに助成と書いた方が非常に言葉としてはすっきりすると思いますので、こちらの事務局の方で文言考えさせていただきます。ありがとうございます。

委員

いろいろご説明いただき、ありがとうございます。②の「徳島の文化を感じられる『環境づくり』」の項目の大阪・関西万博のことで、いろいろこういうことをやっていきますというふうには書いているんですが、一方でその指標・数値目標のところはその項目

がないというのが気になりました。短期的な目標になっちゃうので、出さないのかもしれないというふうにも受け取ったんですけども、アフター万博というところで、例えば大阪・関西万博を通してあわ文化の認知度向上に一層努めた後、それをどうやって維持させていくかという部分も含めた形での指標や数値目標というのを入れられるのではないかなというふうに感じました。以上です。

事務局

大阪・関西万博はどちらかというと観光の方も絡んでまいります。総合計画の方での数値目標、そちらの方も踏まえて、合わせて今後検討してまいりたいと考えております。ありがとうございます。

会長

いかがでしょうか。

委員

よろしいでしょうか。

やはり自分の町がこういった計画ができていないということで、非常にしゃべりにくいところではございますが、1点気になったのが、先ほど委員さんとかがおっしゃっていましたが、若年層をはじめとした入り口の作り方とか、委員さんが言っておりましたような、ネット関係といったような形に繋がっていくかと思うんですが、現在私も、どこの町村や事業者さんも一緒だと思うんですが、やはり何かをする時の周知・広報とか人集めをするとかっていうのに非常に苦慮しているところがございます。というのは、私は今50歳なんですけど、役場に入って初めてコミュニティホールで自主事業をした時に、30年前は地方新聞等の折り込みでだいたい周知っていうのがなされていたという状況でしたが、皆さんご存知の通り、現実問題で言うと、これは統計とかもとってないただの口コミなんですけど、もう40歳代以下の今、地方紙等の新聞購読率というのは非常に下がっているということで、特にこういった40歳代以下の皆さんに対する周知っていうのに、どことも一緒だと思うんですけど、非常に苦慮しているところがございます。そういった中でもやはりSNSというのは誰でもが気軽にもできますし、どこでこう、今風の言葉で言うとバズるかがわからないということもございますので、今この計画の中では具体的にSNSっていうのが、「グローバル化の加速」の項目には出てきてはおるんですが、やはりこういったイベントの周知も始め、自分たちの活動の情報発信もそうだし、人を募集するとか、そういった後継者とかにも全部、今の時代っていうのはSNSが必須になってきているのではないかなと思っておりますので、もう少しこういったところも膨らましてもいいのかなと思っております。以上でございます。

会長

ありがとうございます。発信の仕方といいますか、SNSの活用というご意見ですね。

委員

今の意見はすごく賛成です。

事務局

今おっしゃっていただいた通り、県が主催する音楽の事業とかも、昔は新聞広告を載せたらそれでほぼ満員になるほど応募者が多かったかと思います。やはりまだ新聞の力というのは非常に強いんですが、以前ほどのものでもなくて、現在は出演者の方に SNS で予告をしていただくと、その直後申し込みが増えるとかでまさしく実感しているところでございます。一方 SNS 自体も数多く溢れておりますので、その SNS をどのように見ていただくかというのも1つの課題になっておりまして、毎回考えながら、我々も行っているところでございます。そういうのもいろいろ検討して、今おっしゃっていただいた日常活動、単に特別なイベントではなく、日常活動においてもこの SNS の活用というのは、今後有効になってくると思います。どういう風にしたらいいのかというのは、今後また我々も考えてまいりますので、ありがたいご意見として承っておきます。

会長

他いかがでしょうかね。どうぞ。

委員

今回非常によくまとめられてますし、前回と違うということと三好長慶が出てきたりとか。先週 NHK の「知恵泉」にも出てたんで、ちょっとずつ全国発信に近づいてきてるかなというふうな気もしてます。ちょっとした希望の星が出てきつつある時に、こういうふうに文章にされてるといっても非常に評価したいと思います。

先ほど、委員もおっしゃったように、人形浄瑠璃もそうなんですけれども、一生懸命育て上げ、クラブとかで育った人が県外に出て、そのまま帰ってこないとか。どうすれば徳島に残っていただいて、それが継承できるかということが課題だろうと思います。この文章で継承と書かれてますけれども、具体的にどんな方法があるのか。今、十郎兵衛屋敷で人形浄瑠璃振興会員の方がボランティアで新しい「みらい塾」っていうのを作りまして、本当の新人や、学校訪問した時にしたいっていう子供たちはお母さんと一緒に来て練習したりというような方も増えてきて、ちょっとずつ活発化してるんですけども、じゃあその子が違う遠い小学校に行くと、次中学校っていうと、市内ですと今は川内中学だけで、高校になると市内は城北だけですか、選択肢が非常に少ないんですよ。そういう時にクラブにしる何にしる次の受け皿がないっていうのが非常に問題かなって思いますし、そういうところをどうにかして繋げていけないかなっていうようなことも、単なる継承という言葉っていうのは非常にいい言葉だし、頑張ってるなっていう感じにはなるんですけども、どこかで具体的な策が出てきたら非常に嬉しいなというふうに思います。

あとは非常によく頑張ってまとめられてますし、前回の意見も取り入れていただいてるし頑張っておられるなというふうに思いました。以上です。

委員

ありがとうございます。

今までの各委員さんのご意見を拝聴致しまして、ごもっともなご意見だと思います。まず、事務局から、資料1、資料2を作っていただきましたが、前回、委員の方々から、色々ご意見をいただきました内容や審議結果がほぼ反映されており、バランスよく、きちんと整理されているということに、敬意を表したいと思います。

今日の議論の中で、バランスは良いけれども、重点的なものを差別化すべきじゃないかみたいなお話もあります。確かに今、特にホールの問題ですね。それから大阪・関西万博の案件がございますので、そこは確かに他の部分よりも若干詳しく触れていた方が、県民から見て望ましいのではないかと思います。それで、大阪・関西万博につきましては、先ほどKPIの話がございましたが、なんらかのKPIを入れた方がいいのかなと思います。総合計画との整合性等もありますけれども、その整合性も踏まえた上で、やはり独自性もあっていいのかなというふうにも考えております。

それともう1点、ホールにつきましても、会長がおっしゃったように、なかなかこの審議会でどこまで触れていいのかというわかりませんけれども、できるだけ早くということと、立派な施設をというのは、これは誰も否定できない話なので、そこを入れておくと。あとKPIとして今、文化芸術を育む場の充実として10ページに「新ホールの整備」とだけありますけれども、整備するのは当たり前としてですね、果たしてそれだけでいいのかと。場所は置いといてですね、いつまでにか、そういったことを書けるのか書けないのか、いろんな問題があると思いますが、整備とだけ書いているのがちょっと気にかかるなど。時期とかどの程度の規模とか、書ける範囲で、ご検討いただきたいと存じます。ここは非常に微妙な問題があるのを承知しておりますので、どこまで具体的に書かかってというのは私も今ここで申し上げることはできませんけれども、例えば時期の問題で言えば、完成時期がいいのか、方向性を示す時期がいいのか分かりませんが、少なくとも先ほど誰かがおっしゃったように、この基本計画期間中に何らかの足跡を示していただかないと、県民の皆様もこの計画をせっかく作ってもなんだという形になりかねないと思いますので、そこはできる範囲でご検討いただければありがたいと思います。以上です。

事務局

ありがとうございます。新ホールにつきましては、私どもも先般、県民アンケートでフリーに意見を書いてください、聞かせてくださいというアンケートを実施させていただきました。その中で、やはり早期に整備してほしいというご意見、そして機能をしっかりしたものを作ってほしいというようなご意見がありました。そういったところは今後、永年にわたって徳島県の芸術文化ホールとして活用していただくためには非常に大事な視点だと思いますので、スケジュールで具体的にどこまでかけるかというのはなかなか、場所がどうって話がある中でこの計画の中でどこまで書き込めるかというのは正直難しいものがあるかもしれませんが、例えばKPI、今のところ、8ページのところで文化芸術ホールに触れさせていただいておりますが、もう少し言葉を工夫して何かしっかりしたものを作るんだというような意味を含めて表現ができないかというよ

うなことも、合わせて考えて参りたいと思います。やはり県民の皆さんの意見もそうですし、この審議会の総意としても、そういったご意向があるということ踏まえて考えていきたいというふうに思っております。

委員

細かいことで恐縮なんですけど、さっきの KPI の中でお話ししましたけれども、10 ページ③のⅡ「文化資源を活かした文化観光の推進」で、文化の森だけの入館者数を拾っているようなんですが、先ほどの総合計画との整合性という話もあるんですけども、NHK さんや四国放送さんとかが、例えば 5 月の連休でこんな施設に何人の集客数があつたということ、毎年伝えておられますが、例えばその中には十郎衛屋敷とか阿波おどり会館とかですね、県内の代表的な文化観光施設も拾われていたと思いますので、やはりそういったところもちゃんと入れておかないと、県民の感覚とずれているかと思われましたので。KPI については総合計画との整合性を図るっていうのはお聞きしておりますが、やはり独自性もあってもいいのかなと思いますのでよろしく願いいたします。以上です。

会長

ありがとうございます。他に何かまだあれば。

委員

10 ページの KPI の、「メディアを活用した文化の振興」というところで。僭越ながら、私四国放送に所属しておりますので、ぜひとも活用していただきたいという本音でございます。我々もリソースが少なく、やりくりで苦慮しているところではあるんですけど、テレビ局も今後、ネット配信等にも力を入れていかざるを得ない。もちろんすでに進行中ですが、よりそちらに傾注していくというのは否めないというところあります。そこあたりを活用していただけたらありがたいなということでございます。

同じ 10 ページの「メディアを活用した文化の振興」の中で、4K・VR 映画祭というものがありますが、他の地域でやられている映画祭となると、大抵大体 1 週間ぐらいは通してあるんですけど、確か土日だけだったような気がするんです、この 4K・VR 映画祭っていうのは。やはり期間が短いと、どうしてもその現地に足を運ぶという機会そのものが奪われるということがございます。それを補う意味でも土日だけでなく平日もやってほしいということと同時に、合わせて配信可能なものっていうのが、短編映画祭で、そんなに大きなバジェットでないものに関しては、割と可能なものっていうのは存在しますので、そのあたり配信とかでも、合わせてやっていただくと、盛り上がるのかなという気はしております。そういったことも踏まえまして放送局とも連携をして一緒にやっていけたらなというふうに、個人的には思います。

それともう 1 点、11 ページの「各主体の役割」、⑤市町村というところがあるんですけど、「文化施設や社会教育施設の運営や文化団体への支援」とありますが、ご存知の通り、徳島県展、県美術展というのがございますが、その巡回展というのを、一昨年

ぐらいからやっているんですが、吉野川市の研修センターが、個人的な主観ではあるんですけど、非常にスタッフの質が高いように感じました。イベントを盛り上げようというその気概みたいなものは、スタッフ個々に必要なものでないかなと思うんですがそういった地方に足を運びますと、徳島市内で見たことがないようなチラシ・フライヤー、地域ごとに置かれている、紹介されているチラシっていうのがたくさんあって、こういうのは見たことがないなっていうのがよくあります。そういったものをネット環境がこれだけ充実している徳島でありますから、ポータルサイトやSNS、ホームページ等通じて、そういうイベントのチラシをデータ化したものを、うまく一覧できるような環境があってもいいのではないかなというふうに最近感じております。我々も来年2月に、展覧会を開催する予定で、今計画を進めているところなんですが、それを告知する際に、媒体として何が相応しいかと考えた時に、フライヤーというのは情報が密になっておるので、手に取った方にとっては非常に有益なものであろうということなので、まずフライヤーは絶対作ろうと。ただし、やっぱりネットでもフェイスブック等を通じて拡散していくことを大前提でやろうというふうな判断をしております。やはりそういったことも含めまして、そういうSNS、ポータルサイトを使ったものというので、イベントのチラシを一覧できるようなものがあればいいんじゃないかなということで、この施策体系図の中で見ますと、「②徳島の文化を感じられる『環境づくり』」の中に該当するのか、はたまた「③地域づくり」にも関わってくるなというところで、どれにはめるべきかというところは非常に悩ましいところではありますけど、告知の仕方ということで、1つポイントを挙げていただければ幸いに思います。以上です。

委員

この9ページⅣの2つ目に、「あわカル～とくしまイベント情報～」というのを記載させていただいていると思います。周知不足で恐縮なんですけれど、主旨としましては、県内の各文化施設が運営する行事を年間を通じ、募集しまして、ある程度の期間、インターネットで情報を提供するという活動をしております。また、各市町村でやられる事業についても応募していただき、事務方でチェックさせていただいて、記載させていただいております。見づらい現況ではあるかもしれませんが、県の方と連携しながら、よりブラッシュアップするというのも非常に大事なかなということで、ご紹介させていただきます。以上です。

事務局

「あわカル」の方、我々の県のイベントも全てを出していただいているのですが、こういう場でこういうお話しをさせていただき、どんどん広めていきたいと思っております。やはり先ほど申し上げましたように、県も様々なSNSがあるんですが、こういう存在があるということ自体を周知していくというのが大事だと思っておりますので、県の方としましても、いろんな会でこのような「あわカル」の活用、こういうのがあるというのも、合わせて周知してまいりたいと考えております。ありがとうございます。

委員

お願いや要望ではなく現状を皆さんに、聞いていただきたいなと思います。先日、11月11、12日に第55回の日本舞踊の会を終えたばかりでございます。先輩たちが築かれたものを私たちが守っているというだけの会ではございますが、現状を言えば、若い子どもたちの入会が非常に少ない中、その点はお花とかお茶とか、そういった会も同じではございますけれども、街中を歩いていても、着物姿の人に会うのが本当はないんですね。そんな中で日本舞踊を教えるということは、非常にこれからも難しいのではないかなと思います。第1回から私も会に入っておりますけれども、もう少し頑張って若い人に指導していきたいなと思ってます。で、そのためには各家庭の方のお母様たちの協力もいただかないといけませんので、この場をお借りして、そういうこともお願いしてお話ししたわけでございます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。以上でございます。

会長

ありがとうございました。時間もだいぶたちましたので、このあたりで審議を終了したいと思います。事務局におかれましては、委員の皆様から出たご意見を踏まえまして最終案に向けて検討をよろしく願いしたいと思います。1年ごとに検証していくわけですから、その中で修正も加えながらやっていければと思います。

これで議事の1を終わります。次に意見交換というのを設けておりますが、何かこの際、ご意見ございましたらお願いしたいと思います。どうぞ。

委員

イベントのPRをさせていただきます。現在徳島県の南部、阿南市、那賀町、海部郡では四国の右下ということで、南部総合県民局や四国の右下観光局の皆様と共に市町村も合わせて色々な活動しております。その中で、地域の文化・歴史にスポット当てて、これを情報発信するとともに交流人口を凶ったり、また今話題に出ておりました、大阪・関西万博に来られる皆様に対して何かインパクトを残せないかなということ、地域の皆さんと一緒に考えておる中でございます。そういった中で、先日11月4日には那賀町の坂州農村舞台で浄瑠璃サミットを開催いたしております。これに続きまして、12月10日、美波町におきまして、県南の秋祭りと煙火、これは歌でなしに花火の方でございますが、煙火を一堂に会しました祭り×煙火サミットを開催いたします。美波町日和佐のちょうさ（太鼓屋台）をはじめ、阿南市からは橘町のけんかだんじりや羽ノ浦町のお神輿、また那賀町や美波町、赤松地区の吹き筒花火などをはじめまして、また、舞姫による浦安の舞などの神楽等を行います。こうした実演といいますか、来ていただいた方に見るだけではなくて、そうしたことを、花火で言うと線香花火をつくったり、お祭りと言うと太鼓を叩いたり巫女の舞の体験といった、体験コーナーも同時に設けております。こういったことで、少しでも県南地域の魅力づくり、また交流人口の拡大につなげていけたらなと思っております。来年度以降も何とか同じようなことは難しいかもしれませんが、こうした中でいろいろ活動を続けていきたいと思っておりますので、ご案内とともにぜひ12月10日お足運びをいただけたらなと思っております。以上でこ

ざいます。

会長

ありがとうございました。何か他に。

先日、安部龍太郎さんが滴翠クラブで講演されました。安部さんは戦国時代に造詣が深い方です。三好長慶は大河ドラマで放送する価値がありかなしかと質問がありましてね。それは十分価値があると話されました。今までその実績が十分に知れ渡っていないのが、不思議なぐらいですと。信長は、三好長慶のやり方を真似たんだということです。三好長慶を日本国中に知らせる必要がありますね。

よろしいでしょうか。それではこれで終わりたいと思います。議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。事務局にお返しします。